

ウ.有権者の投票行動

問1 あなたは5月20日に行われた鳥取市庁舎整備に関する住民投票で投票しましたか。一つ選んで○を付けてください。

【旧鳥取市】			%
1	投票した(期日前・不在者投票を含む)	430	77.1
2	投票しなかった	121	21.7
99	無回答	7	1.3
	合計	558	100.0

【旧町村部】			%
1	投票した(期日前・不在者投票を含む)	497	78.8
2	投票しなかった	127	20.1
99	無回答	7	1.1
	合計	631	100.0

問2 問1で「1.投票した」と答えた方にお聞きします。住民投票では、どちらの選択肢に投票しましたか。さしつかえなければ、一つ選んで○を付けてください。

【旧鳥取市】			%
1	旧市立病院跡地への新築移転に賛成	165	29.6
2	現本庁舎の耐震改修及び一部増築に賛成	263	47.1
	非該当	128	22.9
99	無回答	2	0.4
	合計	558	100.0

【旧町村部】			%
1	旧市立病院跡地への新築移転に賛成	205	32.5
2	現本庁舎の耐震改修及び一部増築に賛成	288	45.6
	非該当	134	21.2
99	無回答	4	0.6
	合計	631	100.0

投票参加に関して

- ・ 実際の投票率に比べると、投票に行った人の割合は旧鳥取市、旧町村部ともに30ポイント余り高くなっている。この種の調査では、元々関心の低い方から回答を得るのは簡単なことではない。元々、実際の投票率との乖離が本調査ではやや大きいため、この調査データをもとに投票参加および棄権の要因について分析を行うことは、やや難しい面もある。
- ・ 地域別(投票区別)投票率に関しては、市のwebサイトでも公開されているが(参照:<http://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1337574753288/index.html>)、実際の住民投票でも、投票率に関して著しい地域差は見られず、本調査においても目立った差は見られない。また、年代別で見ると、通常の選挙で広く見られる

のと同様に、若い人ほど「投票した」という割合は低く、概ね年齢とともにその割合は上昇する。

両案に対する投票行動に関して

- ・ 実際の住民投票においては耐震改修案に賛成する票が有効投票の約6割を占めたが、本調査でも旧鳥取市、旧町村部ともに、投票先を答えた人の6割前後が耐震改修案を選択しており、この点においては、偏りの少ない有益な調査データが得られたと考えられる。旧市で61.4%、旧町村部で58.4%と、その割合の差は3ポイントにとどまり、両地域間の比較においては、2つの案に対する意見分布に目立った差は見られない。
(なお佐久市の調査では、「総合文化会館」建設に賛成の割合が、旧町村部では2割弱、旧佐久市では約3割となっており、若干の地域差が見られた。)
- ・ ただし、地区別のデータに着目すると、旧町村部では新築移転に賛成した人の割合が、最も高い国府と青谷の両地区で約50%に達するのに対し、最も低い気高、鹿野の両地区では25%台となっており、旧町村単位で見ると比較的開きが大きい。この点については、各地区に特有の何らかの要因が影響している可能性が考えられる一方、棄権者を含めても回答数が計60件と少ない鹿野町に関しては、新築移転を選択した人の回答がたまたま少なかった、という可能性も排除できないため、今後さらに検証を試みたい。他方で、旧鳥取市においては、中学校区別で見ても旧町村部ほどの顕著な差異は見られない。
- ・ 年代別の傾向については、とりわけ20代において回答数が少ないため、20代については参考値として紹介するが、旧鳥取市では20代、30代、50代で新築移転案に賛成の割合が40%を超える一方、耐震改修案に賛成した人の割合は40代、60代、70代でいずれも65%前後に上っている。また旧町村部では、30代と70代で新築移転案に賛成の割合が50%前後に上り、20代と40～60代ではいずれも、耐震改修案に賛成した人の割合が6割を超えている。両地域ともに、年齢と投票行動との間に明確な相関は見られない。

エ. 両案への投票理由

また、その選択肢に投票した理由も具体的にお聞かせください。 ※自由回答形式		
【旧鳥取市／新築移転案】		
		%
長い目で見ていずれ新築が必要だから	54	32.7
耐震改修案に疑問を感じたから	39	23.6
分庁舎を集約するのが合理的	28	17.0
現本庁舎は古くて不便だから	20	12.1
地域や経済の活性化につながる	18	10.9
立地や交通の便が良いから	16	9.7
合併特例債を活用できるから	11	6.7
防災拠点としての機能を考えて	5	3.0
その他	15	9.1
無回答	32	19.4
合計	165	100.0
【旧町村部／新築移転案】		
		%
長い目で見ていずれ新築が必要だから	59	28.8
耐震改修案に疑問を感じたから	48	23.4
分庁舎を集約するのが合理的	25	12.2
立地や交通の便が良いから	24	11.7
合併特例債を活用できるから	20	9.8
地域や経済の活性化につながる	19	9.3
現本庁舎は古くて不便だから	14	6.8
防災拠点としての機能を考えて	7	3.4
その他	19	9.3
無回答	49	23.9
合計	205	100.0
【旧鳥取市／耐震改修案】		
		%
新築移転は税金の無駄づかいになるから	108	41.1
新築移転案の計画内容や進め方に不満を感じたから	45	17.1
耐震改修案のほうが費用が安い	38	14.4
現状では新築の必要性を感じない	30	11.4
他に優先すべき課題があるから	26	9.9
本庁舎は現在地が良いから	20	7.6
県庁や他の公共施設も耐震改修だったから	17	6.5
東日本大震災の復興に財源を回すべき	6	2.3
その他	8	3.0
無回答	49	18.6
合計	263	100.0
【旧町村部／耐震改修案】		
		%
新築移転は税金の無駄づかいになるから	94	32.6
現状では新築の必要性を感じない	49	17.0
耐震改修案のほうが費用が安い	46	16.0
他に優先すべき課題があるから	41	14.2
新築移転案の計画内容や進め方に不満を感じたから	29	10.1
本庁舎を利用する機会がないから	14	4.9
本庁舎は現在地が良いから	7	2.4
その他	15	5.2
無回答	70	24.3
合計	288	100.0

投票理由の集計結果は、自由回答形式で回答者に記入していただいた内容をもとに、いくつかのカテゴリに分類してまとめたものである。複数の項目に言及した記述内容についても全て、該当するカテゴリに含めているため、パーセント表示の合計は100を超える値となる。

まず、新築移転案、耐震改修案のいずれを選択した人にも共通して見られるのは、「次世代に負担をかけたくない」などのような記述に象徴される、長期的な視点に立った考え方である。新築移転案に投票した理由としては、いずれの地域でも「長い目で見ていずれ新築が必要だから」が最も多く、“長い目で見て”“将来的に考えて”いずれ新築する時が来るから、それならば今の世代が負担すべきだという考え方がある。他方、耐震改修案を支持した理由としては、新築移転した場合の財政負担について懸念する回答が両地域ともに最多であり、“税金の無駄づかい”といった表現に代表されるように、新築移転で大金を費やして子や孫の代に借金を残したくない、という考え方が見られた。どちらの案を支持した人であれ、一言で言えば「賢いお金の使い方をしてほしい」というのが、多くの有権者に共通する思いであると考えられる。

ただ、「税金の無駄づかい」という回答は同時に、各有権者の漠然とした不安感やイメージ、固定観念などに基づく投票行動と捉えることもできる。もう一つの共通点として、いずれの案を支持した人でも、もう一方の案に対する疑問や不信感を述べた回答や、やや具体性に欠ける回答が散見されたことが挙げられる。新築移転案への投票者であれば、耐震改修案について「20億で出来るとは思えない」「増改築の繰り返しになるだけ」などの疑問があり（＝集計表の「耐震改修案に疑問を感じたから」）、「現本庁舎は古過ぎる。不便だ。」といった意見も見られた。逆に耐震改修案に投票した人では、新築移転後の現本庁舎の跡地利用の問題や、駅南庁舎取得の経緯などに触れたうえで、新築移転案は計画性がない、新築ありきで進められたことが不満、などの意見があるほか、「現状では新築の必要性を感じない」という具体的な根拠を伴わない回答も目立った。

また、耐震改修案に投票した人では、財政負担に対する言及が特に多かったため、それが新築移転案の金額に対する否定なのか、2つの案を比較検討したうえでより安価な案を選択したのかを記述内容から判別し、前者を「新築移転は税金の無駄づかいになるから」に、後者を「耐震改修案のほうが費用が安い」に含め、両者を重複してカウントしないよう集計を行った。この両者を比較すると、「税金の無駄づかい」が「費用が安い」と比べて旧市で約3倍、旧町村部でも約2倍に上ることが分かる。もちろん、両方のニュアンスを読み取れる回答も数件程度はあるのだが、全体的に見れば、耐震改修案が多くを支持を集めたのは、新築移転案との相対比較で選ばれたというよりは、「新築移転案に対する否定」という意味合いが比較的強かったことが背景にあると解釈できる。

このほか、旧町村部における耐震改修案支持の理由として、「本庁舎を利用する機会がない」との回答も14件あったほか、「他に優先すべき課題があるから」という回答の中には、各総合支所の充実を望むという意見も含まれる。投票理由の記述からは、旧市と旧町村部における庁舎問題の捉え方の違いをこうした点に垣間見ることができる。

オ. 住民投票における棄権の理由

問3 問1で「2. 投票しなかった」と答えた方にお聞きします。あなたが投票しなかったのは、どのような理由からですか。次の中から、あてはまるもの全てに○を付けてください。

【旧鳥取市】			％
用事・仕事があったから	53		43.8
健康上の理由から	12		9.9
投票に行くのが面倒だったから	16		13.2
市庁舎整備をめぐる問題に関心がなかったから	18		14.9
どちらに投票したらよいか判断に迷ったから	28		23.1
自分一人が投票してもしなくても同じだから	10		8.3
住民投票の実施に疑問・不満を感じていたから	14		11.6
投票日を忘れていたから	6		5.0
その他	10		8.3
無回答	1		0.8
合計	121		100.0

【旧町村部】			％
用事・仕事があったから	49		38.6
健康上の理由から	17		13.4
投票に行くのが面倒だったから	16		12.6
市庁舎整備をめぐる問題に関心がなかったから	21		16.5
どちらに投票したらよいか判断に迷ったから	24		18.9
自分一人が投票してもしなくても同じだから	9		7.1
住民投票の実施に疑問・不満を感じていたから	22		17.3
投票日を忘れていたから	9		7.1
その他	9		7.1
無回答	1		0.8
合計	127		100.0

投票しなかった理由に関しては、いずれの地域においても「用事・仕事があったから」との回答が最も多いが、「投票に行くのが面倒だったから」「市庁舎整備をめぐる問題に関心がなかったから」といった無関心による棄権に加え、「どちらに投票したらよいか判断に迷ったから」とする回答も棄権した人の2割前後に上っている（佐久市の調査においても、概ね同様の回答傾向であった。）。公共施設を建設・整備するうえでは、建物の耐用年数の問題や、関連費用をどこまで勘案するかなど、複雑で専門的な判断が求められる側面もあり、そうした点が一般市民にとっては判断の難しい部分でもあったと思われる。

実際、鳥取市の住民投票を棄権した有権者には、「住民投票の実施に疑問・不満を感じていた」人も含まれており、庁舎問題は議会で決定すべき事柄であるとする市民も少なからずいたと言える。市の情報提供のあり方や、投票実施に至るまでのプロセスなどが、市民にとってもう少し理解しやすいものであったなら、実際の投票率以上に有権者の関心を喚起することも可能であったと考えられる。